

マルチメディア時代に対応する世界的な情報通信の研究拠点

横須賀リサーチパーク(YRP)は、三浦半島中央部、豊かな緑に囲まれた横須賀市の丘陵地(京浜急行電鉄株所有地)に、高等教育機関および国内外の民間研究機関の集積を図り、移動通信技術を核とする情報通信技術に特化した研究開発拠点を形成するものです。

この計画は、1987年、郵政省の提唱により検討を開始し、郵政省・神奈川県・横須賀市の「官」と、京浜急行電鉄株をはじめ、情報通信・金融・建設などの「民」が一体となり進められています。

世界のテレコム交流拠点 日本版シリコンバレー目指して

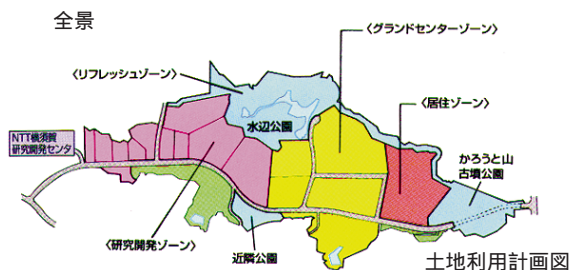
平成9年10月オープンしたYRPの中核施設(YRPセンター1番館・2番館)には、大手移動通信事業者、国立研究機関、国内・欧州の大手通信機メーカー等の民間研究機関が進出し、産・学・官の研究機関による共同研究、国内外の研究交流・人材育成、研究支援等の事業が展開されます。

進出する研究機関(平成9年10月現在)

- ・ YRPセンター1番館
郵政省通信総合研究所、YRP移動通信基盤技術研究所、富士通、沖電気工業、富士電機、NTTソフトウェア、アドバンテスト、日本モトローラ、日本エリクソン、電波産業会
- ・ YRPセンター2番館
NTTアドバンステクノロジ、国際電気、東芝、日本電気、日本無線、日本情報通信コンサルティング、日本ルーセント・テクノロジー、日立製作所、日立電子、日立金属、日立化成工業、日立電線、ノキア・モビルホン・ジャパン、三菱電機、YRP高機能移動体通信研究所
- ・ 独立研究所
NTT移動通信網、オプトウェブ研究所、松下通信工業



(写真/左)1番館 (右上)2番館 (右下)生活支援棟



魅力ある街づくり 豊かな自然環境と人工美の調和

YRPのほぼ中央に位置する水辺公園は、造成前の湿地帯が動植物の生息環境を変化させることなく復元・再生され、トウキョウサンショウウオ、ホタル、野鳥他、多彩な動植物が生息し、研究者たちの憩いの場として利用できるよう計画されています。



水辺公園

湿地帯の復元は、動植物の専門家の意見を踏まえ、生態系を極力損なわない施工方法が検討され、専用開発した機械により表土を直接運搬・移設する方法で行われました。

工事概要

- [基盤整備工事]
工事場所：横須賀市光の丘 発注者：京浜急行電鉄株 設計監理：京浜急行電鉄株 開発面積：58.8ha
- [YRPセンター1番館]
発注者：(株)横須賀テレコムリサーチパーク 設計監理：(株)エヌ・ティ・ティ・ファシリティーズ 規模：地下1階、地上7階 延床面積：15,386㎡
- [YRPセンター2番館]
発注者：京浜急行電鉄株 設計監理：(株)エヌ・ティ・ティ・ファシリティーズ 規模：地上7階 延床面積：7,572㎡
- [生活支援棟]
発注者：京浜急行電鉄株 設計監理：(株)エヌ・ティ・ティ・ファシリティーズ 規模：地上1階 延床面積：769㎡